香 川 県 の 中 世 城 館　～讃岐武士の足跡をたずねて～

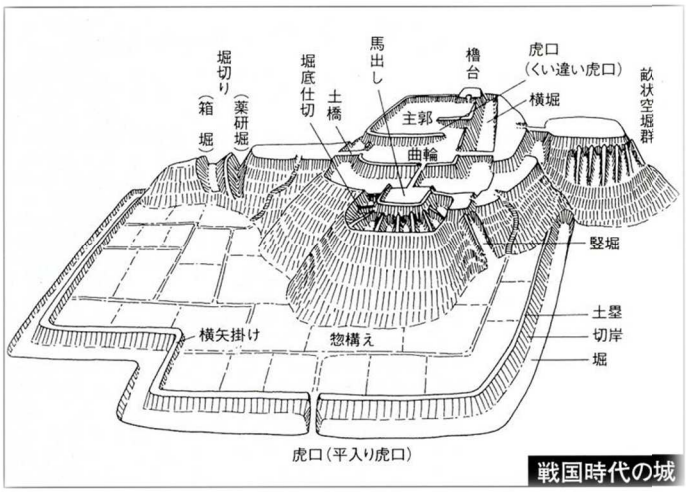
1　旅に出る前に

・中世城館の基礎知識（※中世＝鎌倉時代・室町時代）

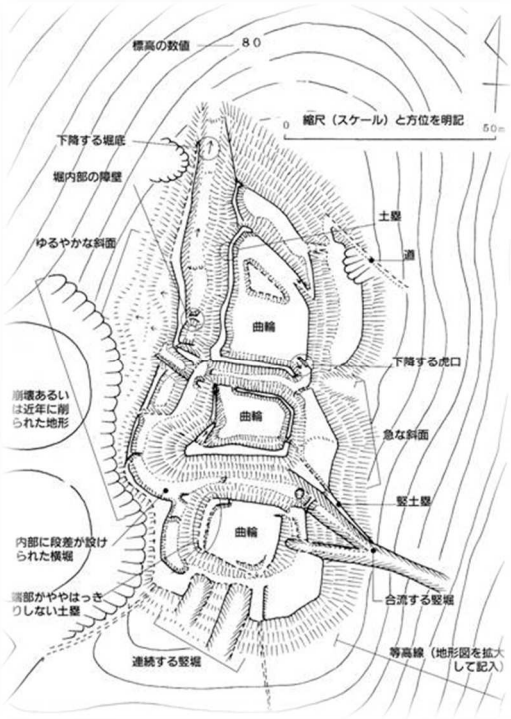
「縄張り」: 守り、誘導し、勢いをそぎ、一斉攻撃をかけるための、さまざまな技法を組み合わせた城の設計。

「縄張図」: 縄張りを平面図として描いたもの。築城時に作成されたかもしれないが、一般的には現代の研究者が地表の痕跡を読み取り図化したものを指す。（下右図）

虎口（城の出入り口）: 攻防の要。防御技法は著しい発達が見られる。



千田嘉博他『城館調査ハンドブック』1993



別冊歴史読本『城を歩く』2003

・復元された山城と館

復元整備された姿は、私たちに中世城館が近世の城（石垣・天守閣）と異なる姿をしていたことを伝える。

・館と城

初めは平地の居館に防御性を備える

→戦時の継続により、背後に尾根によってつながる「詰めの城」を構え、城が独立

→最後には山城の中に常住状態となる

2　讃岐武士の足跡をたずねる

・香川県中世城館跡詳細分布調査ー

平成 9～14 年度にかけて実施

県内に約 400 か所の城館跡（四国内で最も密度が高い？）

現在はこれを踏まえ　重要な城館跡を調査し、史跡等指定を目指す

・中世の讃岐武士

在地系：讃岐の伝統的氏族である綾氏の流れをくむ

外来系：守護や地頭として、或いは元寇を機に移住してくる

戦国大名が育たなかった　←守護細川氏の不在による守護代制

下剋上が進む前に、他国からの侵略

・讃岐の中世城館

構造 曲輪・土塁・堀・堀切等単純なものに、長曽我部、織豊等による特徴的な築城技術の改変が加えられる。

武士団形成期の拠点城館①

南北朝期の城館（14 世紀）②

永正の錯乱（1507）による戦国時代突入

三好氏の侵攻（16 世紀前半が盛期）③

毛利氏の侵攻（天正 5 年、1577）

長宗我部氏の侵攻（天正 6 年～）④

豊臣秀吉の侵攻（天正 10 年～）

讃岐の戦国時代の終わり（天正 13 年）⑤

館と城⑥

国土地理院電子地形図（タイル）を一部切り抜き、情報を追加して作成

①武士団形成期の拠点城館～勝賀城跡

承久年間（1219～1222）　香西資村が勝賀城（高松市）を築き、麓に居館佐料城を構える

（羽床氏が讃岐藤家の惣領だったが、承久の乱で後鳥羽方についたため、香西氏に地位を奪われた。）

香西氏は香東・香西・阿野南条・阿野北条を支配。

塩飽を管下に入れ、香西水軍を擁した。また、京でも活躍。

天正２年（1574）　三好氏、勝賀城を攻めたが、籠城戦で落城せず。

天正年間 居館を藤尾城に移す。

天正 10 年（1582）　長宗我部元親が藤尾城を攻め、和議により軍門に降る。

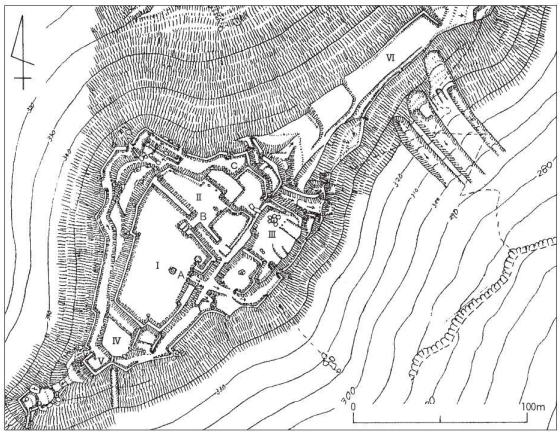
天正 13 年（1585）　秀吉の四国遠征により元親が土佐に去り、戦国時代の終焉とともに廃城。

勝賀城跡 縄張り図

戦国時代の改変が多くみられる。

城内からは 14 世紀後半～15 世紀の土器や釘が少量出土

図は『香川県中世城館跡詳細分布調査報告』より



勝賀城跡縄張り図②（1/2,000、図：池田誠）

②南北朝期の城館（14 世紀）～星ヶ城跡

建武２年(1335) 備前児島の佐々木信胤は､讃岐国鷺田荘の細川定禅に従い足利尊氏に応じて挙兵。

暦応２年（1339）　尊氏の臣高師秋と対立し、南朝方につき小豆島星ヶ城に拠る。

貞和３年（1347）　信胤は細川師氏と戦って敗れ降参。

星ケ城の南麓に信胤の居館となる安田城が築かれた。

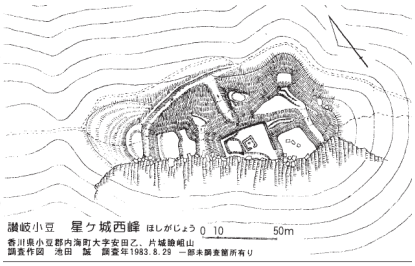
星ヶ城跡 縄張図

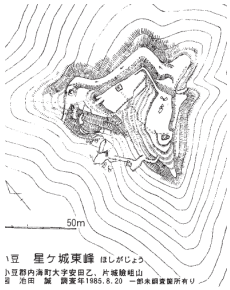
土塁・堀・曲輪を組み合わせて防御を行うという発想が薄い

常住はなく、見張り台？

戦国期の改変がなく、文献のとおりの廃城か？

図は『香川県中世城館跡詳細分布調査報告』より





③A 三好氏の侵攻～虎丸城跡

寒川氏の支城

寒川氏 室町時代、長尾庄の地頭となり、大内・寒川郡を勢力下とする。

四国一の堅城と言われた昼寝城を本拠とし、虎丸城・引田攀山城を支城とする。

元亀３年(1572) 阿波の三好長治により､寒川元政は昼寝城へ移り､三好方の安富肥前守盛方預り。

天正 10 年（1582）　長宗我部元親との戦いにより阿波から讃岐へ逃れてきた三好政康（十河存保）が城主となり、安富肥前守は本拠の雨滝城へ戻る。

その後、十河城（三好政康）と虎丸城（安富玄蕃允）が三好方の二大拠点となる。

天正 11 年（1583）　長宗我部元親により落城。

昼寝城跡 縄張図

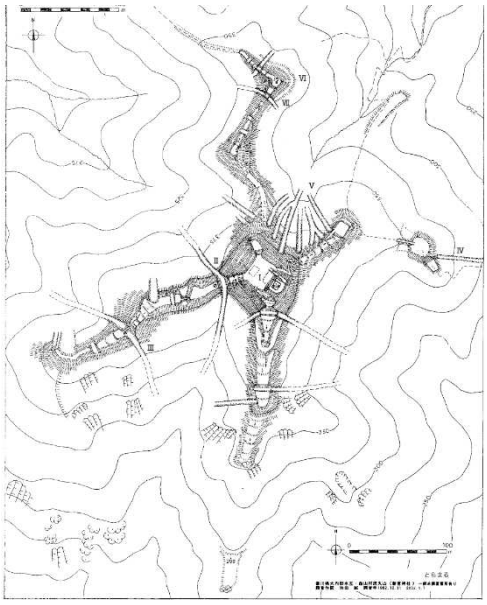
　長宗我部による改変が著しい

　櫓台

　大堀切

　主郭と櫓台（山頂）

図は『香川県中世城館跡詳細分布調査報告』より



虎丸城跡縄張り図（1/3,000、図：池田誠）

③B 三好氏の侵攻～雨滝城跡

安富氏 東方守護代。細川家の内衆として、在京することが多く、支配力の低下を招いた。

長禄年間（1457～1461）頃 安富盛長により築城。

元亀３年（1572）　安富肥前守盛方が虎丸城に移ったあと、六車宗湛に守らせる。

天正 10 年（1582）　三好政康（十河存保）が虎丸城主となり、安富盛方は本拠の雨滝城へ　戻る。

天正 11 年５月 長宗我部元親の大軍の攻撃を受け、家臣六車宗湛の降参により落城。

長宗我部元親の豊臣方への降伏後、安富玄蕃允は本領を安堵され、仙石氏の旗下に入った。

雨滝城跡 縄張図

織豊系技術による改変、

　桝形は天正期（同 13 年?）

大堀切

曲輪・登城路・横矢掛けによる防御

居館跡（礎石建物）瓦葺建物

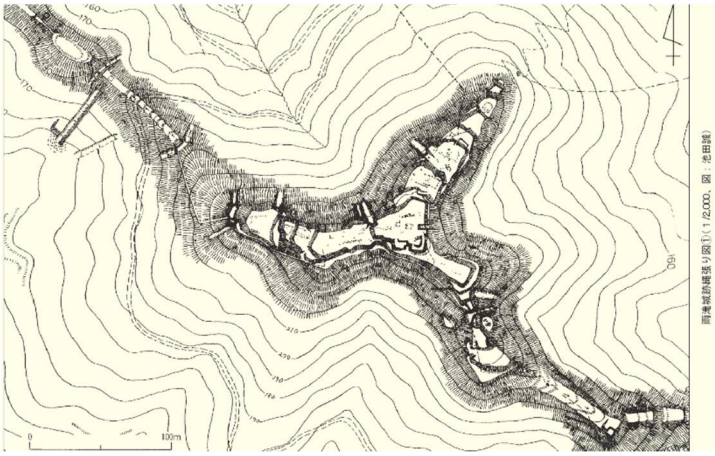
16 世紀代の土器・陶磁器、焼けた壁

　土、鉄滓

主郭（山頂）

階段状の曲輪群

図は『香川県中世城館跡詳細分布調査報告』より



雨滝城跡縄張り図(1/2,000、図：池田誠)

④A 長宗我部氏の侵攻～西長尾城跡

貞治元年（1362）　中院源少将の籠もる西長尾城、細川頼之に攻められ落城。（太平記）

海崎氏、頼之より西長尾の地を恩賞として預けられ、長尾氏を名乗る。

天正７年（1579）　長宗我部氏へ降伏し、長宗我部氏の重臣である国吉甚左衛門に城を譲る。

天正 13 年（1585）　長宗我部氏、土佐へ退却

西長尾城跡 縄張図

堀切

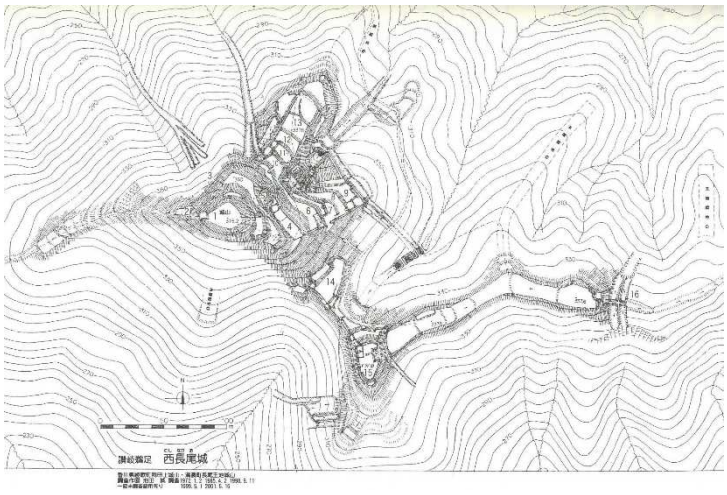
連郭式曲輪

主郭（山頂）

ヤグラ（国吉城）

国吉城は天正８年長宗我部氏が城主となった際に新たに築かれ西長尾城の主郭となった。

以後、西長尾城は讃岐攻略の拠点となる。



図は『香川県中世城館跡詳細分布調査報告』より

④Ｂ長宗我部氏の侵攻～天霧城跡

貞治３年（1364） 白峯合戦で軍功のあった香川氏により築城。

香川氏 細川氏に従い、讃岐に土地を与えられる。

西方守護代。在京時は一族を又守護代とする。

西讃は有力武家がいないため、香川氏が支配を進めていく。

永禄元年（1558） 攻める阿波三好勢に対し、香川之景は籠城で応戦。

落城せず和平により香川氏は三好氏の支配下に入る。

天正７年（1579） 香川信景は長宗我部元親の和平申入れに応じ、元親ニ男を世継ぎとする。

天正 13 年（1585） 長宗我部氏の土佐への退却に信景父子も同道、天霧城は廃城となる。

天霧城跡 縄張図

城域は 1200m×560m、曲輪大小 70 余

県内随一の規模を誇る。

長宗我部氏による改修

隠し砦跡（櫓台と曲輪）

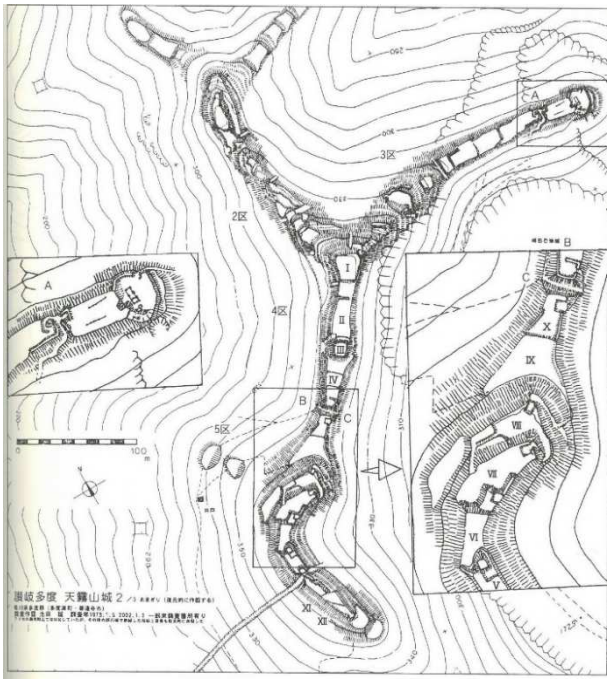
連続する内枡形と複雑に折れ曲がる城道

主郭（山頂）

大堀切

15～16 世紀代の土器・陶磁器、鉄製品等多数

礎石建物跡



図は『香川県中世城館跡詳細分布調査報告』より

④Ｃ長宗我部氏の侵攻～十河城跡と上佐山城跡

十河城 十河氏の居館

貞治元年（1362） 十河吉保が館を構える。

天正８年（1580） 長宗我部元親の侵攻に対し、十河（三好）存保が阿波より入城

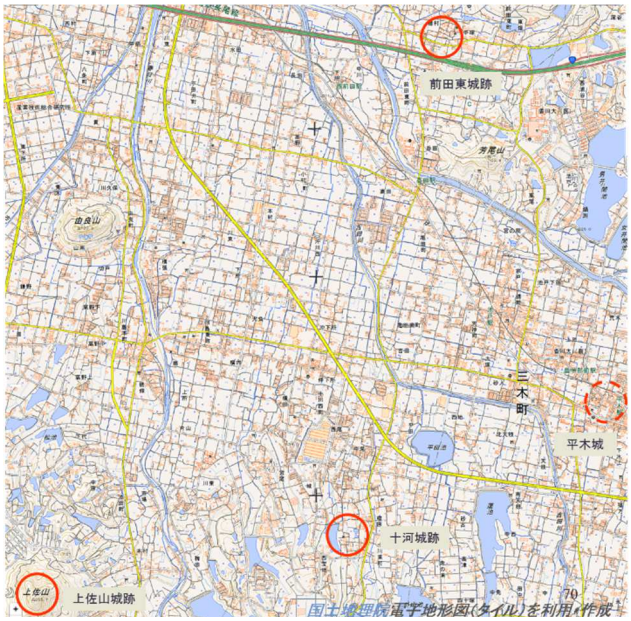
天正 9 年（1581）　織田信長をバックに存保は長曽我部陣所を囲む

天正 10 年（1581）　香川氏が攻めるも落ちず、元親軍も阿波から侵入。
平木城を付け城とし膠着

天正 11 年（1582）　東讃での戦いに敗れた存保は虎丸城から十河城へ入るが、ここも攻められ、存保は豊臣秀吉の元に逃げる

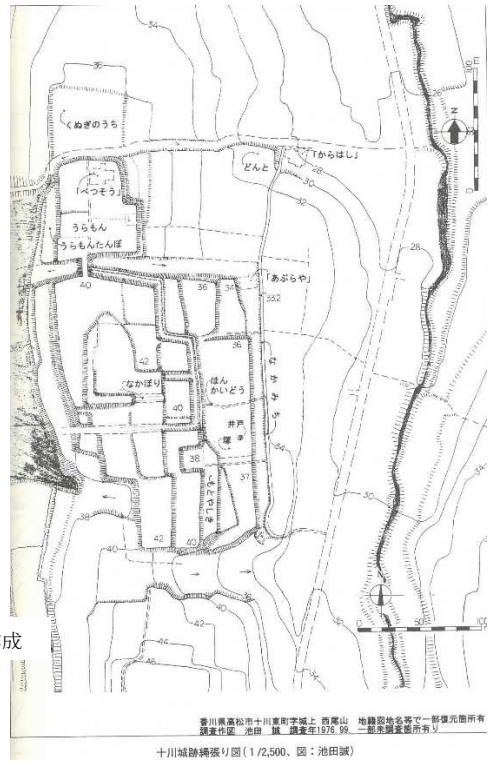
天正 13 年（1583）　存保は山田郡 2 万石に封じられ、新しく前田東城を築造開始

天正 14 年（1584）　九州平定の戸次川の戦いで十河氏滅ぶ



国土地理院電子地形図（タイル）を一部切り抜き、情報を追加して作成

右図は『香川県中世城館跡詳細分布調査報告』より



十川城跡縄張り図（1/2,500、図：池田誠）

十河氏関連城館位置図

十河城跡 縄張図

眺望のいい尾根末端に位置する。

詰めの城を持たず、居館に防御性を加える。

上佐山（王佐山、土佐山）城跡

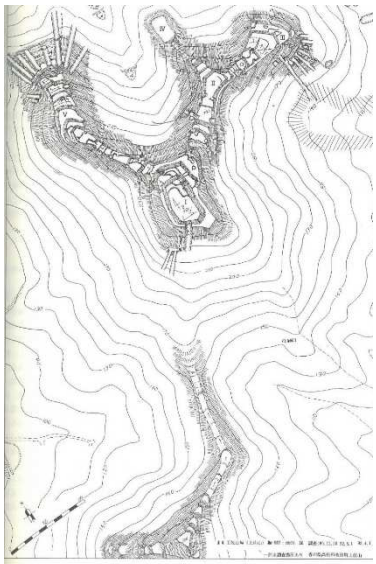
上佐山城跡　縄張図

連続竪堀が顕著。

現在はさらに多くが確認されている。

元々三谷氏の詰めの城だが、地名の類推、立地、連続竪堀から十河城攻めの際の長曽我部氏の陣城が置かれたと考えられる。

図は『香川県中世城館跡詳細分布調査報告』より



上佐山城跡縄張り図（1/2,500、図：池田誠）

前田東城跡

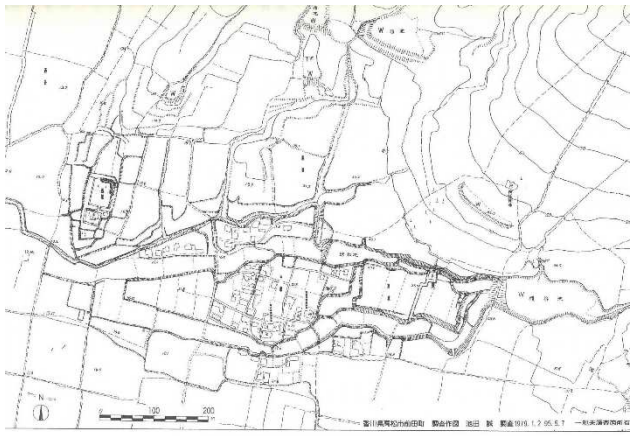
前田東城跡　縄張図

忘れられた未完の城跡。

中世城館跡詳細分布調査で再発見された。

十河氏が 2 万石の大名にふさわしい城として築造を始めたと考えられる。

図は『香川県中世城館跡詳細分布調査報告』より



前田城跡・前田東城跡縄張り図（1/5,000、図：池田誠）

④Ｄ長宗我部氏の侵攻 江甫草（九十九、つくも）城跡

築城時期不明。

天正 6 年（1578） 長宗我部元親の侵攻により落城、

城主細川氏政は氏寺興昌寺一夜庵前庭で自害。

江甫草城跡 縄張図

石垣

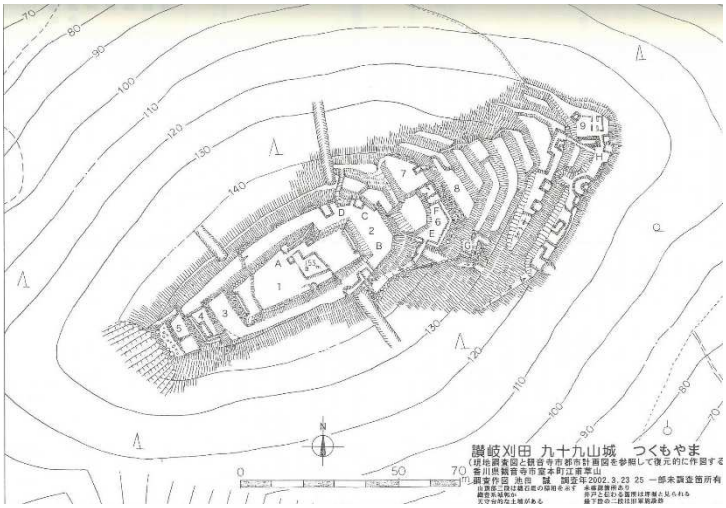
連郭式曲輪

主郭（山頂）

蓮光院（細川氏の館跡地か？）

麹で栄えた港町仁尾

図は『香川県中世城館跡詳細分布調査報告』より



④Ｅ長宗我部氏の侵攻 天王城跡

築城時期：不明

天正 6 年（1578） 長宗我部元親が讃岐に最初に侵攻してきた際、本篠城とともに落城？

城主：大平国秀

居館：付近に「土居の門」の地名が残り、居館跡？

天王城跡 縄張図

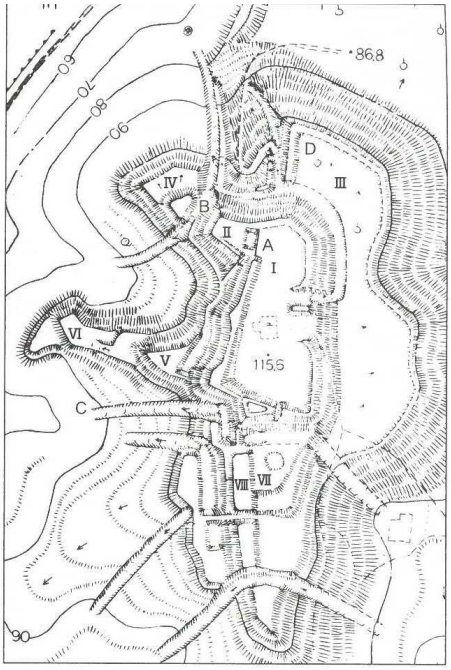
中心に大きな主郭と、東に大きな曲輪

堀切と竪堀の組合せが発達し、強固な防御力を誇る。

長宗我部氏が改修したとみられる。

15～16 世紀の土器や建物跡

図は『香川県中世城館跡詳細分布調査報告』より



天王城跡縄張り図②（1/2,000、図：池田誠）

⑤讃岐の戦国時代の終わり 引田城跡

16 世紀初 四宮右近（寒川氏配下）が築城

元亀元年（1570） 矢野三武（三好氏配下）が城主（引田攀山城）。

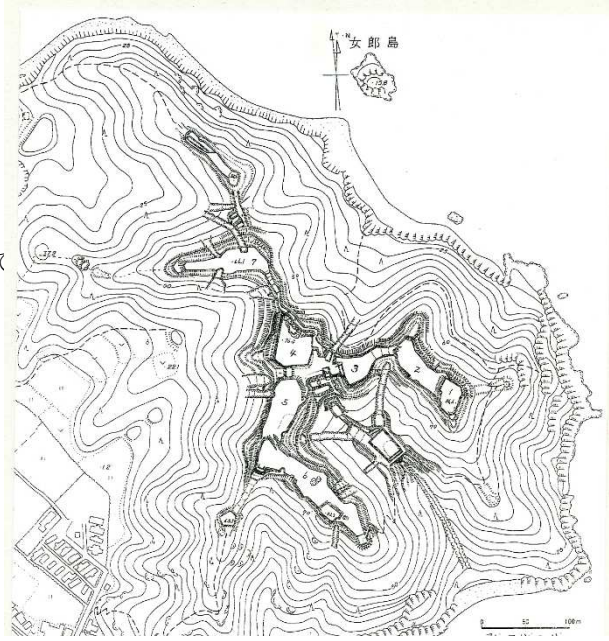
天正５年（1577） 無城主になる。

天正 11 年（1583） 長宗我部元親対仙石秀久の戦い。秀久、秀久は一時引田城に逃げ込む。

天正 15 年（1587） 生駒親正、引田城に入る。

中世の引田は北へ砂洲が突き出し、その先に城山の小島が浮かんでいたと想定される。砂洲に港町が形成された。

右図は『香川県中世城館跡詳細分布調査報告』より



縄張図

西の郭の破城跡（石垣の一部を壊すこと

総石垣

瓦葺きの建物

⑥館と城 西ハゼ土居遺跡（坂田城）と室山城跡

西ハゼ土居遺跡（16～17 世紀前半）

３つの居館跡。居館 A は一辺 50m 弱で条里地割に重なる

B・C は一族・家臣等関連の屋敷

Aが文献上の坂田城で城主は小比賀氏か。

室山城跡

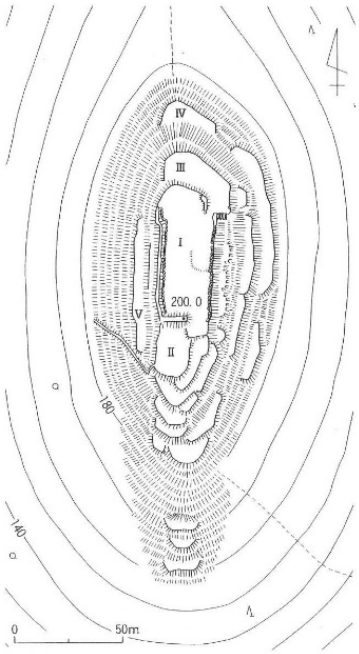
室山山頂に築かれる。

築城や廃城の時期は不明。

城主は西ハゼ土居遺跡との位置関係から、小比賀氏か？

土塁や石塁が勝賀城に似ており、属城であることを示す。

右『香川県中世城館跡詳細分布調査報告』より



第 103 図 室山城跡縄張り図